

に富み、CaOが極端に少ない異常な原岩を想定しなければならない。

Cordillo (1974) は当時花崗岩化論者だったらしく、変成岩に花崗岩から Al, Mg, Fe, Mn が付加し、Si, Ca, Na が逸脱する、いわゆる basic front の形成によって、この堇青石岩が形成されたものと考えた。

しかし堇青石岩には変成岩構造はみられず、粗粒な塊状組織を持ち(写真1)、一種のペグマタイトの様な火成起源であることも充分考えられる。堇青石岩下盤の花崗岩は堇青石をかなり含んでいるSタイプであり、このような特殊なSタイプマグマの分化最末期に生じたメルトから堇青石は固結したものではなからうかと、筆者らは考

えている。

終りに文献を手配された丸紅株式会社勢古口順課長に厚くお礼申し上げる。

文 献

Gordillo, P. C. E. (1974): Las rocas cordieriticas de Orcoyana y Cerro Negro, Soto (Cordoba), Boletín Asoc. Geol. Cordoba, Tomo II nos. p.3-4, 90-104.

ISHIHARA Shunso and CAPRARELLI Graziella (1991): Cordierite rocks from Soto, Argentine.

<受付: 1991年10月5日>

花崗岩のふるさと：御影



花崗岩は別名みかげ石と呼ばれるが、その名は現在の神戸市灘区の御影町に由来する。しかしここには昔も今も大きな石切場はない。御影の地名がつく阪急御影駅から阪神御影駅付近は平地であり、石は出そうもない。みかげ石は実は住吉川の上流、住吉台から荒神山(315m)付近で採掘されたようである(図参照)。現在でも(株)石久では玉石からピンク花崗岩(本誌441号図録1)が加工されている。

神戸市の灘区付近は六甲花崗岩と呼ばれる黒雲母花崗岩から構成される。これは浅成のチタン鉄鉱系花崗岩で一般にカリ長石が桃黄色に帯色する。この花崗岩は数本以上の東北東系断層群からなる六甲衝上断層により、ずたずたに切られている。この断層は新幹線六甲トンネル掘進を困難なものにしたが、同時に、古くから山地崩落の原因であったらしく、住吉川は阪急神戸線では下をくぐるが、JR山陽線ではレールの上を横切る(図の矢印参照)。

この断層破碎と地殻隆起のために住吉川上流域の花崗岩は、ころびとなってその直下の御影と住吉地区に流出を繰り返していたものと思われる。玉石は加工技術を持たない古代では、家、庭、さらには城の構築に不可欠であって、当地のものは早くから利用されていたのであろう。それが花崗岩の代表的地名として明治時代に登録された原因ではあるまいか。住吉川から流出しながら、何故に御影石か、については、その積出が御影で行われたとの解釈もある(渡辺, 1987, 石屋史の旅, 392p.)が、地形的にみて住吉川の流出砂石は御影一帯に散乱したものと思われる(石原舜三)。